

いよいよ明日石垣島でトライアスロンがスタート ITUワールドカップ石垣島大会直前情報2

世界12カ国の強豪を相手に、日本ナショナルチームはどう迎え撃つか

4月15日(土)、沖縄県石垣市の大濱信泉記念館で、16日(日)に行われるITUワールドカップ石垣島大会の選手記者発表が行われた。

司会は、山本光宏JTU事業広報委員会副委員長。出席した選手は、昨年本大会優勝のサマンサ・ワリナー(ニュージーランド)、昨年ITUワールドカップポイント1位のアナベル・ラックスフォード(オーストラリア)、昨年本大会2位の庭田清美(アシックス・ザバス)、昨年2位のハンター・ケンパー(アメリカ)、一昨年のITUワールドカップ蒲郡大会で優勝したクリス・ゲメル(ニュージーランド)、平野司(NTT東日本・NTT西日本・Weider)の6名。

まず各選手から、北京へ向けてどう戦っていくかが語られた。その後、この石垣島大会



記者たちの質問に答えるケンパー。左ヘゲメル、平野、司会・山本、右ヘワリナー、ラックスフォード、庭田

サマンサ・ワリナー (ニュージーランド)



石垣島大会は、私にとってはじめてワールドカップで優勝した特別な大会。明日もぜひ表彰台に上りたい。北京に行くのは目標の一つ。まず国の代表になれる成績を残したい。明日は、スイムでいい位置につけ、最後は力強く走って逃げ切りたい。

アナベル・ラックスフォード (オーストラリア)



石垣島大会は初めて。しかしコースを試走してすばらしさに感激した。レースは、ワリナーや庭田のようないいメンバーが多いので頑張りたい。今年はずでにワールドカップで2勝している。レースは、スイムをいい位置であがり、バイクで先行して、ランにつなげたい。

庭田 清美 (アシックス・ザバス)



ここは、私にとってワールドカップで戦いはじめて10年目の記念となるレース。北京では、まだ時間もあるので、自分ができるところをきちんとやって、海外の雑誌で注目される選手になりたい。明日は、スイムはトップ選手と差があるので、バイクで追って、ランで表彰台を狙う。



いよいよ明日石垣島でトライアスロンがスタート

ITUワールドカップ石垣島大会直前情報2

を戦う作戦などについて、各選手に質問があった。

次に、ワリナーに昨年の勝因が聞かれ、ワリナーは、「ランが得意なので、最後まであきらめないつもりで戦った」と答えた。さらに庭田へは、外国選手と比べて日本選手の足りないところ、そして、庭田自身がどこを鍛えてきたかという質問があった。庭田は、「筋力不足とランのストライドの大きさの違い。そして環境に甘えない」と端的に答え、自身も改善されつつあることを語った。

スイムの得意な平野へは、「どうしたら表彰台に上がれるか」と質問され、「得意のスイムをトップであがって逃げ切るのが自分のスタイル。アテネ以降は、スイムを押さえてバイク・ランで勝負した。今年はバイク・ランも走れる選手になる」とコメントした。

明日は、午前8時に一般の部が、午後1時にエリート女子が、午後3時45分にエリート男子がスタートする。



笑顔のトップ選手6名。こうした和やかな雰囲気も今日だけのもの。明日は厳しい戦いが幕を開ける

ハンター・ケンパー (アメリカ)



石垣大会に戻れてうれしい。北京オリンピックへは毎年いい成績を残してメダルを取りたい。明日もぜひメダルを取りたい。レースでは、スイムでトップに立ち、バイクでも小さな集団で頑張り、そのまま得意のランで逃げ切りたい。強豪ぞろいなので、どの選手が勝ってもおかしくない。

クリス・ゲメル (ニュージーランド)



明日の天気は良くないということなので、いいレース運びをしたい。石垣島は3回目、二つのメダルを取ったが、去年は9位だった。北京まではさまざまな大会があるので一つひとついいレースにしたい。明日はスイムで先上がり、バイクで逃げて、ランで勝ちたい。

平野 司

(NTT東日本・NTT西日本・Weider)



北京はまだ先の話のように感じるが、それまでのレースでいい成績を残せるよう、このレースをステップアップの一つにしたい。レースはスイムをトップキープして、バイクで逃げ、ランでできるだけ頑張る。表彰台にあがったことがないので、ぜひ実現したい。

